

---

# ひかり

メント

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ひかり

### 【コード】

N0849B

### 【作者名】

メント

### 【あらすじ】

俺は親友の右目の光を奪った。だから俺は彼の右目のかわりになるうと誓った。

## 序章（前書き）

初作品です。よろしくお願ひ致します。

## 序章

中三のある日曜日、俺たち野球部は部内での紅白戦をしていた。俺  
橘 龍はここたかはしー帯でかなり有名な左投手だった。球速、キレ、コ  
ントロール、どれをとっても高校生レベルだったし、俺はナックル  
という球がなげれる。しかしナックルはかなりの握力を使うのでそ  
うそう投げれる球じゃない。（自分が投げれてすごいと思う）  
そのためいままでは練習以外では極力投げないようにしていた。で  
ももうすぐ俺たち三年生最後の大会があるので、今日の試合で実戦  
でのナックルを投げる練習をしていた。

九回裏、後一人抑えれば勝ちという場面で左バッターボックスに入  
ったのは俺の親友の相川 彰あいかわあきらだ。彰とは幼稚園の頃からの付き合  
いで、かなりのバッティングセンスをもっている。普段は俺とバッテ  
リーを組んでいる。

一球速スライダー ストライク  
二球目ストレート ストライク  
そしてこれが最後だとばかりに思いつきり腕を振ってボールを投げ  
た。

今日の試合で最速の球だろう。135kmものストレートが放たれ  
た。

しかし今までにナックルを投げていたせいで握力が最後まで入らず、  
球がすっぱ抜けてしまった。

その球は彰の顔目がけて真っすぐとんでいった。

一瞬のできごとだった。

気が付くと彰は右目をかばいながらうずくまっていた。

手の指の間から血が溢れだしている。

そして彼はその日から右目の光を失った。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0849b/>

---

ひかり

2011年1月25日05時31分発行